

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	有限会社アゴラ企画	
施 設 名	こまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	27,233	(千円)
	公 演 事 業	20,742 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,062 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,429 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団『馬留徳三郎の一日』	10月7日～11日 ※	『馬留徳三郎の一日』作：高山さなえ 演出：平田オリザ 出演：田村勝彦、羽場睦子、猪股俊明、山内健司、他	目標値	1,840
		座・高円寺		実績値	860※
2	青年団『コントロールオフィサー』『百メートル』	12月31日～1月10日 ※	『コントロールオフィサー』『百メートル』作・演出：平田オリザ 出演：永井秀樹、立蔵葉子、海津忠、島田桃依、串尾一輝、他 舞台美術：杉山至 舞台監督：武吉浩二	目標値	980
		アトリエ春風舎 ※		実績値	406※
3	青年団『忠臣蔵・武士篇』『忠臣蔵・0L篇』	12月16日～20日	『忠臣蔵・武士篇』『忠臣蔵・0L篇』作・演出：平田オリザ 出演：永井秀樹、島田曜蔵、海津忠、串尾一輝、他 舞台美術：杉山至 舞台監督：島田曜蔵	目標値	640
		江原河畔劇場		実績値	505※
4	青年団『眠れない夜なんてない』	1月15日～2月8日	『眠れない夜なんてない』作・演出：平田オリザ 出演：猪俣俊明、羽場睦子、山内健司、松田弘子、永井秀樹、たむらみずほ、小林智、島田曜蔵、他	目標値	3,920
		吉祥寺シアター、他		実績値	1470※
5	青年団リンク 公演	10月22日～11月1日 ※	『のじにさすってごらん』作・演出：伊藤毅 出演：木崎友紀子、井上みなみ、緑川史絵、尾崎宇内、他 『ダイレクト／ネグレクト』(公演中止) ※	目標値	1,960
		こまばアゴラ劇場		実績値	660※
6	青年団演出部4～6月公演	中止 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 ※	目標値	2,410
		こまばアゴラ劇場		実績値	0※
7	青年団演出部12～3月公演	12月30日～3月28日	『老いは煙の森を駆ける』出演：女の子には内緒 『熱海殺人事件』出演：うさぎスライプ 『花をそだてるように、ほんとうをそだてています。』出演：ひとごと。	目標値	1,960
		こまばアゴラ劇場		実績値	734※
8	こまばアゴラ劇場4～7月公演	中止 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 ※	目標値	1,290
		こまばアゴラ劇場		実績値	0※
9	こまばアゴラ劇場8～9月公演	8月15日～10月18日 ※	『フィジカル・カタルシス』出演：スペースノットブランク 『うつしみ、絶え間なく』(他2演目) 出演：Eine Feige	目標値	900
		こまばアゴラ劇場		実績値	258※
10	こまばアゴラ劇場11～1月公演	11月4日～23日 ※	『シャンドレ』出演：小松台東 『罪と愛』出演：小田尚稔の演劇 『スーパースーハー』(公演中止) ※	目標値	1,960
		こまばアゴラ劇場		実績値	977※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団若手自主企画	9月26日～10月4日※	『マッチ売りの少女』プロデュース・照明・舞台監督：櫻内憧海 作：別役実 演出：橋本清 出演：串尾一輝、新田佑梨、島山峻	目標値	680
		アトリエ春風舎		実績値	160※
2	高校演劇ワークショップ ／高校演劇サミット	8月4日・5日 ※	(高校演劇ワークショップ)講師：島田曜蔵 井坂浩 泉田雄太 金澤昭 他 (高校演劇サミット)中止※	目標値	入場者 630・参加者 100
		こまばアゴラ劇場		実績値	参加者 44 ※
3	こまばアゴラ劇場 演劇 ワークショップ研修会	6月14日～3月11日※	講師：平田オリザ、田野邦彦、わたなべなおこ、林成彦、工藤千夏、舘そらみ、大池容子、他	目標値	30
		こまばアゴラ劇場、他		実績値	20※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	駒場幼稚園 こまばクラブ演劇ワークショップ	中止 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。※	目標値	100
		駒場幼稚園		実績値	0※
2	福島県被災地域における防災及びふるさと創造学ワークショップ	10月21日～12月16日※	講師：渡辺直子、有吉宣人、宮崎悠理、天明留理子、牧田裕子、他	目標値	2,000
		ふたば未来学園高校、他		実績値	158※
3	海城中学校 「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業	9月24日～10月31日※	講師：渡辺直子、有吉宣人、折原敬一、窪田壮史、永井祐美子、村田牧子、山本雅幸、他	目標値	1,000
		海城中学校		実績値	320※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>こまばアゴラ劇場が目指す、『劇場文化』の定着と世界的芸術作品の創造」「海外公演・国際交流事業の推進」「地域ネットワークの構築推進」「人材養成・普及啓発事業の拡充」というミッションに基づき、新型コロナウイルス感染症という逆風の中、当初予定していた16事業のうち13事業を実施（規模を縮小して実施したものを含む）。予定通りの内容で実施することが出来た事業については、予算についてもほぼ交付要望書の計画通りに進めることが出来たが、大半の事業において内容変更や一部事業の中止等があり、決算額も大幅に変動した。そうした状況下においても、事業の実施に最大限努めたことにより、こまばアゴラ劇場が持つ社会的役割をかりうじて維持したと考えている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>こまばアゴラ劇場が通常の貸し小屋業務（賃貸料を取って劇団に劇場を貸す日本の従来の劇場システム）をすべて停止し、劇場で行われる全公演を「こまばアゴラ劇場プロデュース」として活動し始めたのが2003年。以後これまでの15年以上にわたる継続的な活動により、平田オリザ率いる劇団青年団の創造活動は、「新作創作」「レパートリー作品のブラッシュアップ」「地方巡演」「海外公演」といったように、地域から全国、世界へと発信していくサイクルを確立してきた。これらの活動によってこまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎は中小規模劇場の運営モデルの牽引役となり、全国の芸術団体が当劇場の利用を通して劇場が持つノウハウやミッションが共有され、近年では官民間問わず各地域の劇場が芸術家・芸術団体を支援・プロデュースしていくケースも増えてきた。こうした舞台芸術界全体の趨勢を見ても、当劇場の社会的なニーズは高く、引き続き活動の継続が望まれていると考えられる。また令和2年度事業においては、公演事業10「こまばアゴラ劇場11～1月公演」にて実施した「小田尚稔の演劇『罪と愛』」が、第65回岸田國士戯曲賞の最終候補作となった。惜しくも受賞は逃したものの、このように青年団演出部やこまばアゴラ劇場が主催した若手劇団からは全国各地の様々な戯曲賞・演劇賞等の受賞者が毎年のように出ており、「こまばアゴラ劇場公演」「青年団リンク公演」といった創作活動による公演事業や「青年団若手自主企画」等の人材養成事業がコロナ禍においても機能している。このことから、助成に値する意義は継続して認められると言える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業・人材養成事業・普及啓発事業とも新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれも指標として挙げた目標値は達成出来ていない。令和2年度は目標値達成前に、活動の最低限の維持が主眼となっており、コロナ禍収束後を見据えた体力の維持・温存を図っている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれの事業においても観客や参加者の密集を避ける措置が必要となったため客席数を減らすなどの対策を行い、加えて外出自粛要請による社会的な雰囲気も影響し、入場者数・参加者数は大幅に減少した。

【主な指標】

(公演事業)

- ・ 支援会員数 (実績 306 人 / 目標 320 人)
- ・ 支援会員制度連携劇場数 (実績 5 劇場 / 目標 4 劇場)
- ・ ポストパフォーマンストーク開催回数 (実績 13 件 / 目標 60 件)
- ・ 平日マチネ公演回数 (実績 19 回 / 目標 35 回)
- ・ メールマガジン発信数 (実績 17 件 / 目標 26 件)
- ・ 支援会員特設割引制度による会員数 (実績 22 名 / 目標 50 名)
- ・ 託児サービス対象公演数 (実績 0 公演 / 目標 4 公演)
- ・ 訪日外国人入場者数 (実績 0 名 / 目標 280 名)
- ・ 新聞雑誌等主要メディアへの劇評記事等掲載件数 (実績 2 件 / 目標 7 件)

(人材養成事業)

- ・ 青年団若手自主企画公演作品創作者による戯曲賞・演出家コンクール等への応募数 (実績 3 件 / 目標 8 件)
- ・ 青年団若手自主企画公演作品創作者による創作企画公演数 (実績 3 件 / 目標 7 件)
- ・ 高校演劇ワークショップ参加者による創作作品数 (中止により実績 0 件 / 目標 12 件)
- ・ ワークショップ研修会参加者主体による普及啓発活動のコーディネート・ファシリテーション件数 (実績 2 件 / 目標 6 件)

(普及啓発事業)

- ・ 駒場幼稚園「こまばクラブ演劇ワークショップ」での上演来場者 (中止により実績 0 名 / 目標 25 名)
- ・ 防災ワークショップ実施件数の増加 (実績 1 件 / 目標 8 件)
- ・ ふるさと創造学ワークショップの参加者数 (事業規模縮小により実績 158 名 / 目標 2,000 名)
- ・ 海城中学校「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業における参加者数の増加 (事業規模縮小により実績述べ 320 名 / 目標 1,000 名)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業番号1「青年団『馬留徳三郎の一日』」及び公演事業番号2「青年団『コントロールオフィサー』『百メートル』」は当初4月～6月の上演を目指して令和1年度末より創作・公演準備が進行していたが、緊急事態宣言の発令により会場が閉館し、一旦は中止となった。その後状況が変わり、事業1については会場側からも新たな劇場利用日程の提示があり、開催時期は変更されたが事業を実施することが出来た。事業2も、こまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎の利用キャンセルが相次いだため、空いた日程を穴埋めする形で実施が実現した。

公演事業番号5「青年団リンク 公演」は、「青年団リンク やしゃご『ののじにさすってごらん』」「青年団リンク キュイ『ダイレクト／ネグレクト』」の2演目を計画していたが、創作環境が整わず「青年団リンク キュイ『ダイレクト／ネグレクト』」を中止し、1演目の上演へと変更した。

公演事業番号6「青年団演出部4～6月公演」及び公演事業番号8「こまばアゴラ劇場4～7月公演」は緊急事態宣言によって創作活動が完全に中断され、中止のやむなきに至った。

公演事業番号9「こまばアゴラ劇場8～9月公演」では、「Eine Feige (アイネフェイゲ)『人はどこまで進化を望むのか?』」の創作環境が整わず、内容を一部変更し、無観客による動画配信公演への切替を行った。

公演事業番号10「こまばアゴラ劇場11～1月公演」では、「かえるP『スーパースーハー』」が2度目の緊急事態宣言発令により中止となった。

人材養成事業番号1「青年団若手自主企画」は、東京での創作と上演の後、兵庫県豊岡市での上演を予定していたが、県を跨いだ移動の自粛も叫ばれる状況であったことから、東京都内での上演のみの開催となった。

人材養成事業番号2「高校演劇ワークショップ／高校演劇サミット」では、「高校演劇ワークショップ」は開催されたものの、「高校演劇サミット」は全国の高等学校に参加を呼びかけるものである都合上、やはり移動の困難から中止となった。

人材養成事業番号3「こまばアゴラ劇場 演劇ワークショップ研修会」は日程を大きく変更して緊急事態宣言解除後より開催したが、受講生を集めて対面で講座を行うことが非常に困難であったため、多くの講座をリモートにて実施した。

普及啓発事業においては、大人数の幼稚園児や中高生等と対面で長時間にわたって接する必要があるという事業の性格上、クラスター発生のおそれもあり、予定していた事業のほとんどを開催することが叶わなかった。いくつかの講座については規模を縮小したり生徒を少人数に分散させたりするなどして、最大限の対策を講じて行った。これに伴い、普及啓発事業番号3「海城中学校 「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業」については、生徒を分散させるために講師を逆に多く投入せざるを得ず、事業費が当初より膨らむ結果となった。

いずれも中止した事業については令和3年度の開催を見込んで引き続き準備を継続している。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業番号1「青年団『馬留徳三郎の一日』」は、青年団演出部所属の高山さなえが尼崎市第7回「近松賞」を受賞した戯曲を平田オリザが演出して上演する企画で、これまで基本的に平田の作・演出による作品を上演し続けている青年団としても、異色の試みとなった。平田の「現代口語演劇」を受け継ぐ作劇でありながら、高山自身が持つユーモアや不条理性等のオリジナリティに溢れた作品で、青年団の新たなレパートリーを担うことも十分可能な創作活動となった。公演事業番号2「青年団『コントロールオフィサー』『百メートル』」は、東京での公演に先立って北米3都市での上演を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、さらに国内での上演も危ぶまれる事態となったが、国内では時期を変更しての上演となった。中止を決断する直前まで創作活動を続け、舞台美術も含めた創作途中の作品を温存し、活動再開時にスムーズに上演へとこぎ着けることが出来ている。これは、文化拠点としてレパートリーのストックを可能としているこまばアゴラ劇場の機能が発揮されたと言える。

公演事業番号3「青年団『忠臣蔵・武士篇』『忠臣蔵・OL篇』」や、公演事業番号4「青年団『眠れない夜なんてない』」では、活動に制限がかかる中、過去に上演された優れた演目を再構築・ブラッシュアップする活動にも取り組んだ。東京都内では客席数を50%に制限したことで、思うように観客動員を増やすことが出来なかったが、レパートリー作品として今後も継続的な上演が期待出来るものとなった。『忠臣蔵・武士篇』『忠臣蔵・OL篇』は既に、東京都と奈良県にて令和3年11月の上演が決定している。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業番号1～4に見られる平田オリザ演出による公演により、日本を代表する劇団として芸術振興の牽引力となるような創作活動を展開した。公演事業番号5, 7では、青年団演出部所属演出家による創作で、若い才能のブラッシュアップを図った。いずれの演出家も舞台芸術のみならず、映画やテレビ・ラジオでも作品を提供するなど活動の幅を広げており、今後益々の活躍が期待されている。公演事業番号9, 10においては、全国各地の話題のカンパニーや、頭角を現しつつある気鋭の新人らによる創作活動を集め、東京という日本の中心に位置する劇場としての役割を果たすべく、多様なプログラミングを行った。

人材養成事業においては、新人演出家・俳優の養成や、地域の高校と連携したワークショップ活動を継続して実施した。また今後ますます全国的な必要性が増していくと考えられるコミュニケーション教育分野において、専門性の高い人材をより多く輩出すべく、令和1年度より新規事業として「演劇ワークショップ研修会」を立ち上げ、引き続き2期目を開催した。こまばアゴラ劇場が長年継続し獲得してきた普及啓発事業等におけるワークショップファシリテーションの実績やネットワークを活かし、技術・ノウハウを共有していくという当劇場独自の人材育成活動によって、地域の文化芸術の発展や市場・裾野の拡大に寄与した。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

令和2年度事業においても、平田オリザ作・演出による日本の舞台芸術の牽引力となるような創造活動（公演事業番号1～4）、青年団演出部の新たな才能を起用した創造活動（公演事業番号5, 7）、地元地域及び全国での活躍が期待出来る新しい才能の発掘・紹介・育成支援（公演事業番号9, 10）、次代を担う若手演劇人・児童・中高生の育成（人材養成事業番号1, 2、普及啓発事業番号2, 3）、コミュニケーション教育プログラムの研究と実践（人材養成事業番号3）といった形で、劇場の機能強化を推進する事業を多角的に計画・実行した。平田オリザの「兵庫県立芸術文化観光専門職大学」学長就任に伴い、青年団による公演事業のニーズはますます高まることが期待され、また所属の若手演出家も今年度事業を通じて活動のフィールドが広がっている。また公演事業10「こまばアゴラ劇場11～1月公演」にて実施した「小田尚稔の演劇『罪と愛』」が、第65回岸田國士戯曲賞の最終候補作となるなど、成果を上げた。多くの人材がこのように評価を得ていく中で、こまばアゴラ劇場が擁する芸術家は切磋琢磨し高いモチベーションを維持しながら日々創作活動を続けている。また創作だけではなく、ワークショップ等の普及啓発・アウトリーチ活動についても、内部でファシリテーターの養成・育成を行い、こまばアゴラ劇場が持つネットワークを通じて全国で事業を展開しており、こうした活動が作品の招聘といった、次のアクションへと繋がるケースも多い。そうした意味においても、こまばアゴラ劇場が実施する公演・人材養成・普及啓発といったそれぞれの事業によって、単発の独立したものではなく、互いに影響を及ぼし合うことで劇場の「機能強化」が推進されている。